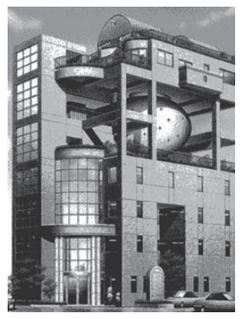
大阪万博のメインテーマ 「いのち輝く未来社会のデザイン」 Designing Future Society for Our Lives に提案する ④

日本国民への提言 ㉗

日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで、日本を再生する


たまごビル
院長 石垣 邦彦
〒581-0061
大阪府八尾市春日町1-4-4
電話072（991）3398
FAX072（991）4498
ホームページアドレス
http://www.tamagobl.com/

たまご理論で病気のしくみを考える

大阪に万博を誘致する

前回、わたしは「いのち輝く未来社会のデザイン」の基本理念を、「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部の柔軟度」（表1）がやわらかい状態におくことを提案しました。

なぜなら、「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部の柔軟度」（表1）がやわらかい状態では、その人のその時の「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」がととのうため、「元気で生きれ・病気の予防ができ・的確な治療・ケアーとなり・穏やかな死に至る」ことができるからです（表2）。わたしが46年にわたる臨床研究から発見した「健康体と慢性疾患の関係」（図1）をみれば明らかです。

大阪万博ではＶＲ（仮想現実）やＡＩ（人工知能）などの最新の科学技術を駆使した「常識を超えた万博」を打ち出しています。確かにそのようなお祭りも大事です。しかし、未来社会の核となるものは、やはり40億年つちかって生まれたわたしたちの「からだ」です。

というのも、わたしたちの「からだ」が1000年や1万年のサイクルでは、大きな変わりのないことが比較解剖学から見て明らかだからです。また、わたしたちはどうあがいてもわたしたちの「からだ」から離れることはできないからです。

最新の科学技術に、新奇性があっても全加盟国の半数近くを占めるアフリカ、中南米諸国の支持を得ることはできません。なぜなら、それらの国々にとってはＶＲやＡＩなどの最新の科学技術は、それらの国々の現実的な諸問題の解決策にはならないからです。そんな新しさは必要がないのです。

わたしが大阪万博誘致と誘致後の万博の運営を通して世界に提案することは、

①人類がスムーズに「生まれ・生きぬき・老化し・死にゆく」には、人類共通の「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態が必要であること、

②「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態では、その人のその時の「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」がととのうため、「元気で生きれ・病気の予防ができ・的確な治療・ケアーの基準となり・穏やかな死に至る」ことができること、です。

そのことを大阪万博誘致のプレゼンテーションと大阪万博の実際の運営を通して全人類に説明・普及することによって、人類全体・地球全体の関心事（注1）である

①生活の質を追求する『より愉しく』

②環境の変化に強い『よりしなやかに』

③持続可能に発展する『より未永く』

④多文化共生の『ダイバーシティー』

を満たすことができます。

その人類全体の関心事を実現する核となるものが、「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部の柔軟度」がやわらかいことなのです。

2005年愛知万博の催事デイレクターを務めたイベントプロデューサー澤田裕二さんは

「珍奇な物を見に行くだけの万博は必要ない。社会的課題の解決に向け、市民が参画し、考える場にする必要がある」ということを話されています。

「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態を、大阪万博のメインテーマである『いのち輝く未来社会のデザイン』の基本理念にし、世界に発信する必要があります。人類一人ひとりが自らの「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態を会得し、自らの「からだ」をととのえることで、社会的課題に一人一人が参加し、その成果をえることができます。

表2 人は楽しむために生まれてきた！
～人間の生死は「上腹部の柔軟度」が指標となる～

ROB 治療で「上腹部の柔軟度」が正常化されると…
「入り出」がととのい、深く長くここちよい呼気ができる

・呼吸が深くなり
・循環が良くなり
・人体力学が安定し
・自律神経がととのい
・内臓全般の動きが活発になる

●生きる力がつく　⇒ 生き方が身につく
●総合的免疫力がつく　⇒ 予防ができる
●自然の治癒力がつく　⇒ 治療が的確に
●自然なバランス力がつく ⇒ 自然なケアー
●自然な死への流れができる ⇒穏やかな死

■「からだ」の「しくみ」が生かされ
ROB 治療で人生が統合される！！

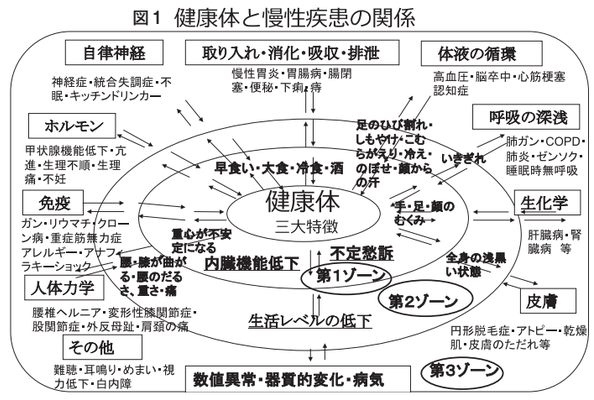
表1 健康体の三大特徴

(1)「上腹部の柔軟度」＝腹部の柔軟度と形態と温度分布
「健康体」の場合、立位で上腹部が下腹部より少し低く手で上腹部を圧迫しても圧痛は無く、しこりもなく、その圧迫をとくとすぐに元に復する柔軟度があり適度な緊張がある。
また、腹部全体は温かくほぼ同一温度である。

(2)頭部と足先の温度差
「健康体」の場合、頭部が足先より約１度から３度高い範囲である。

(3)立位での姿勢
「健康体」の場合、正面からみると脊柱は正中線上でまっすぐであり、側面からみると生理的に適切なＳ字状の 湾曲を保ち、人体の各部位に余分な緊張と力の過剰な 負担がない

図1 健康体と慢性疾患の関係



「上腹部の柔軟度」と「人体力学」との関係を深める

今までの臨床研究の流れを掲載し、今回は前回に引き続き、腰痛に至る原因が85パーセント不明だというその理由を、さらに深く解明してゆきます。

《原始の単細胞の生命から人体力学に至るまで》

【Ⅰ「入り出」の原動力＝「体液の移動」による「体腔圧の変動」と人体の「正常機能・構造・形態」との関係】

【Ⅱ「体腔圧の変動」状態が「上腹部の柔軟度」の程度にあらわれ、人類の姿・形・動作と密接な関係がある】

【Ⅲ人体力学（姿勢と動作）発見に至る経緯について】

【Ⅳわたし自身の「からだ」の気づきについて（特に人体力学＝姿勢と動作の観点から）】

【Ⅴ妻の妊娠による「からだ」の変化が大きな発見につながる】

【Ⅵ胸腹（むねばら）とはどういう状態か】

【Ⅶ背中・腰・膝の曲がり、頸が回らない、すり足でないと歩けない、手が上がらないなどの姿勢と動作の異常は、「からだ」全体を守るための防御反応】

【Ⅷお腹を押さえた痛み＝腹部の圧痛と頚の緊張・背中・腰・膝の曲がりなどとの関係】

【Ⅸ腹部の圧痛を明確にする】

【Ⅹ引き続き腹部の圧痛について】

【Ⅺ日々の生活の中で片寄った動き・姿勢がないにもかかわらず、姿勢の異常・関節の変形・だるさ・痛みがなぜ出るのか】

【Ⅻあらゆる姿勢・動作と上腹部のくぼむ度合い＝上腹部の高低差には、相関関係がある】

【ⅩⅢ臨床研究例（仰臥位＝上向き）姿勢と腹部の圧痛】

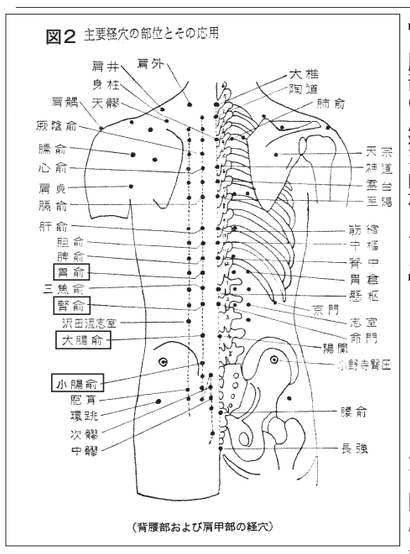
【ⅩⅣ臨床研究例（立位＝立った状態）姿勢と腹部の圧痛】

【ⅩⅤ「からだ」の奥に潜む本質的な事項の確認】

【ⅩⅥ 腰痛に至る原因が85パーセント不明だというその理由を解明する①】

【ⅩⅦ 腰痛に至る原因が85パーセント不明だというその理由を、さらに解明する②】

図2 主要経穴の部位とその応用



（背腰部および肩甲部の経穴）

前回、原因が分かる腰痛として

①②腰部の生理的湾曲（適度な前湾）が失われ物理的圧力が腰部に加わった場合。

③内臓の「はたらき」の低下がおこり、内臓体壁反射として腰部にその反応があらわれ（図2）、その結果腰痛が出た場合（現代医学的には、非特異的腰痛としている場合があるが、臨床上明らかに、その原因を特定できるのでここでは、非特異的腰痛から除外する）を紹介しました。

次に前回、（腰痛に至る原因が85パーセント不明だというその理由を解明する）で

医学的にも明らかでなく本人もその原因に対する自覚がないのに腰痛がある場合（非特異的腰痛）を、胃腸の「うごき」と「はたらき」が低下するケースを例に、「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態（図4）を比較し、その下腹部の柔軟度」がかたい状態（図3）と、「上腹部の中心への力の集中の程度から「からだ」全体の重心の安定度を述べ、腰痛のみならず、「からだ」の全ての各部分の症状と上腹部・下腹部との関係を述べました。

これらの関係により、ほとんど全ての筋肉・骨・関節などの整形外科的な疾患についての原因と経過と結果としての病気の状態が基本的に診断・治療・機能回復ができることになってきます。

今回はさらに深く「非特異的腰痛」を解明してゆきます。「非特異的腰痛」＝原因が分からない腰痛が85％もある理由は大きく5つ考えられます。

1番目には、「上腹部の柔軟度」がやわらかいか、固いかということは本人の自覚に無いということです。本人が日常の中で自分の「上腹部の柔軟度」を確認することもないし、他人の「上腹部の柔軟度」と比較することもありません。

2番目には、「上腹部」がくぼみ「下腹部」の「からだ」の中心に力が集中し「からだ」全体の重心が安定するという臨床的観察・視点が患者側にも、医療者側にもありません。

3番目には、「上腹部の柔軟度」がやわらかくなる、かたくなる原因が「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」の程度と関係があるということが、現代医学・東洋医学その他の代替医療でも明確に分かっていません。

4番目には、日常生活との関係で例えば食事の内容・食事量・食べ方・「からだ」の動かし方・ストレス・こころと「からだ」の疲れ・気候（温度・湿度・気圧）など環境の状態・人間関係（夫婦・親子・嫁姑等）などの生活環境全般と「上腹部の柔軟度」がやわらかくなるか、かたくなるかの因果関係が分かっていないことです。

5番目には、どんな慢性疾患の病気にも言えることですが、現在医学（現代医学・東洋医学・その他代替医療）が病気の原因・経過・結果を「からだ」の「しくみ」を通して、一連の流れでとらえる視点をもっていないことです。特に現代医学は結果としての病気を各専門医が部分的に診察・治療しているために、その病気に至る原因と経過と、そしてその結果としての病気を一連で診る視点がありません。もちろん「からだ」の各部分と「からだ」全体との関係性を一連で診る視点もありません。

だいたい以上が、原因不明の腰痛が85％もある理由であると言えます。もちろん、変形性膝関節症・頸椎ヘルニア・変形性股関節症などの整形外科的な疾患も同じ理由でほとんど原因・経過・結果との関係性が分からないことになっています。

今回はさらにその理由の解明をすすめてゆきます。

これは、すでに本紙で発表したものですがいろいろな意味で分かりやすい例ですので症例を紹介させていただきます。

この方Tさんは、当時68歳の女性です。自覚症状としては腰痛と右の変形性股関節症がありました。

ここでこの方の

①「上腹部の柔軟度」

②食事量

③胃カメラでの診察結果

④腹部の状態を感覚的に受け取る感知力

を観て、腰痛に至る原因が85パーセント不明だというその理由を診てゆきましょう。

①について、「上腹部の柔軟度」は膨満し、固くなっていました。

②について、「食い力」という言葉があるぐらいで本人はたくさん食べられることが元気な証だと信じていました。

③定期検診において胃カメラでの検査結果はいつも正常でした。

④たくさん食べてもお腹が痛むということはありませんでした。

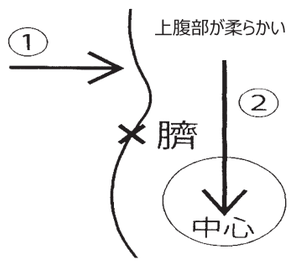
このような①～④までの条件では、まさかご自分の胃腸が悪いとはだれも思わないものです。胃腸の「うごき」と「はたらき」が悪いとは思はないものです。

そのため、わたしがその方の初診時に思わず発した言葉「悪いお腹ですね」に対して、「なんで、わたしのお腹が悪おまんねん」と、大いに疑問だとおっしゃいました。

ましてやこの①～④までの条件があるために腰痛・変形性股関節症がおこっているとは、夢にも思はないものです。そのため、非特異的腰痛（原因が分からない腰痛）が85％もあることになるのですが。

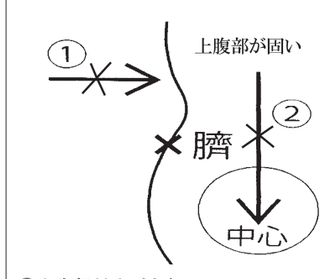
次回は、この症例を解説しながら非特異的腰痛がなぜ起こるのかを紐解いてゆきましょう。お楽しみに。

図3「からだ」全体の重心の安定と上腹部・下腹部との関係



①上腹部がくぼみ
②「からだ」の中心に力が集中し「からだ」全体の重心が安定する

図4「からだ」全体の重心の安定と上腹部・下腹部との関係



①上腹部がくぼまない
②「からだ」の中心に力が集中せず「からだ」全体の重心が不安定になる

注1　地球全体の関心事については、平成29年4月24日朝刊「万博誘致の方程式」での吉見俊哉東京大学大学院情報学環教授の見解を引用

なお文中『ダイバーシテイー』とは「多様性」・「相違点」を指す英語で、性別や国籍、年齢などを問わずに多様な人材を活用することで、生産性を上げ企業の成長と個人の幸せを同時に目指す概念

人類の課題とは、それぞれの人が気づいている、気づいていないにかかわらず、わが人生を楽しめ、ヒトとしての種の「いのち」が未来にわたって受け継がれていくことです。

『いのち輝く未来社会のデザイン』に、「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態を基準にすると、その人のその時の「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」がととのうため、その人のライフスタイルを快適なものにすることができますし、「生まれ・生きぬき・老化し・死にゆく」という多細胞生物としての「いのち」の「つながり」をスムーズにすることができます。

つまり、人類共通の個人的な課題も、ヒトとしての「いのち」を未来にわたって受け継ぐという種としての課題をも解決することができるのです。

この提案は全人類にとってのテーマであり、全人類にとっての解決策となります。先のことへの以前からの提案が『日本国民への提言』であり、副題としてあげている―日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで、日本を再生する―ということなのです。

しかも、その実現の核となるものは、今まで人類が灯台下暗しで気付かなかった、しかし人類すべてにすでに備わっている「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態なのです。

世耕弘成経産相が「立候補する上で、世界中が共鳴できる課題や新たな社会の姿を問うテーマを提案する必要がある」と強調していましたが、「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態＝「上腹部の柔軟度」がやわらかい状態を、『いのち輝く未来社会のデザイン』の基本理念にし、実行することで同じ「からだ」の「しくみ」をもつ全人類に、共鳴と恩恵が生まれることになります。

進諸国・開発途上国にかかわらず全参加国にとっての共鳴と共感を得られることになります。大阪万博誘致に対して大きな原動力となります。

そのためにも、この連載で度々お話しさせていただいている「上腹部の柔軟度」と「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般の動き」との関係を、特に人体力学との関係を再度深く、お話しさせていただきます。世の中が変わります。